６．眞田享委員の退任挨拶

Copyright © 2019 http://chuikyo.news ――中医協ニュース―― All Rights Reserved

○小塩隆士会長（一橋大学経済研究所教授）

本日の議題は以上ですが、今回をもちまして眞田委員がご退任となります。一言、ご挨拶を頂戴できればと思います。よろしくお願いいたします。

○眞田享委員（経団連社会保障委員会医療・介護改革部会長代理）

はい、ありがとうございます。本日は貴重なお時間を頂戴いたしまして、挨拶の機会をいただきましたことを感謝申し上げます。

振り返りますと、初めて中医協総会に参加したのは４年前の４月８日でありました。時まさに新型コロナウイルス感染症の拡大期にあり、非常事態宣言が発出された翌日でもありました。

その日以来、対面からオンラインでの開催となり、またコロナ特例措置に関する緊急の書面による持ち回り開催が幾度となく開催をされるなど、非常に緊張感のあるスタートであったということを思い出します。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、国民の命、健康を脅かすだけではなくて、産業経済活動においても大きなダメージを与える、その現実を目の当たりにしまして、感染症対策あるいは医療提供体制の充実化というのは非常に重要な社会的課題であるということを強く認識すると同時に、この中医協の担う役割の重要性というものを実感した、こういったスタートであったというふうに思い出します。

とはいえ、中医協の存在は一企業、ことに製造業に身を置いてきました私のキャリアからは正直言って遠い存在でございました。

しかしながら、この４年間を通じまして、産業界、企業経営においても重要であり、また中医協運営にとっても共通して重要と思われる事柄について少しコメントをさせていただきたいというふうに思います。

１つ目は、ＰＤＣＡサイクルを継続して回し続けることであります。中医協におけるＰＤＣＡサイクルの原点は附帯意見書にあると考えます。今回は次回改定に向けて合計で 28 項目が記載をされましたけれども、ＰＤＣＡサイクルを回しながら中医協の場において、これらの項目を真摯にご議論をいただき、より良い方向に導いていただきたいというふうに思います。

Copyright © 2019 http://chuikyo.news ――中医協ニュース―― All Rights Reserved

２つ目は、データドリブンマネジメントの徹底であります。中医協の議論は日本全体の診療報酬に関わることを議論する場でありますので、データやエビデンスに基づくべきであるということは論をまちません。そのためのデータやエビデンスは可能な限り多面的で、かつ公平で信頼性の高いデータでなければなりません。この点については今少し継続をして改善・工夫が必要かというふうに思います。

３つ目は、イノベーションの促進であります。医療の安全性・有効性が担保されることを大前提としながらも、イノベーションを評価をし、促進していくことが今後も重要であるというふうに考えます。その際には、医療保険財政の観点から費用対効果の視点もさらに強化する必要があるものだというふうに考えております。

今後、中医協としての議論を深めていただき、期待される重責を果たされることを心より祈念を申し上げます。

結びとなりますが、公益委員の皆さま、１号側、２号側委員の皆さま、そして医療課事務局の皆さまのご支援、ご指導をいただきましたことを厚く感謝、御礼申し上げます。

明日から大部の資料を読むことから少し解放される喜びを、ひそやかにかみしめたいというふうに思います。短い期間でありましたけれども、本当にありがとうございました。

○小塩隆士会長（一橋大学経済研究所教授）

眞田委員、どうもありがとうございました。お疲れ様でございました。

それでは、以上で本日の議事を終了させていただきます。次回の日程につきましては、追って事務局より連絡いたします。それでは、本日の総会はこれにて閉会といたします。どうもありがとうございました。

（配信終了）

Copyright © 2019 http://chuikyo.news ――中医協ニュース―― All Rights Reserved